



【令和5年度】学調号  
甲府市立朝日小学校  
校長 弦間 享  
〒400-0026  
甲府市塩部一丁目4-1

A QR code located at the bottom right of the page, which links to the digital version of the book.

# 全国学力・学習状況調査結果

令和5年度の全国学力・学習状況調査は、4月18日（火）に全国の小中学校で実施されました。

本校でも当日は、6年生31名が参加しました。この調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。内容は、国語・算数と児童質問紙による学習状況の調査でした。

本校では、全国・県・本校の調査結果の集計を受け、調査結果の分析を行ってきました。このたび、分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思います。

なお、調査に参加した6年生一人一人には、個別懇談等を利用して個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。

## | 本校の状況（全国・県との比較）

国語・算数とも、全国平均・県平均とほぼ同等  
学習状況は、おおむね良好

※ 全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、全国平均正答率の±5%の範囲にある場合は、全国の平均とほぼ同等と考えています。

〔参考〕教科別平均正答率〔全国（公立）・山梨県（公立）〕

	国語平均正答率	算数平均正答率
全国平均	67.2	62.5
県平均	66	61

県の平均は、平成29年度より整数で発表されています。

## 2 本校の調査結果から見た傾向と今後の取組（国語・算数・理科）

全体的な平均正答率は、国語、算数とも全国・県の平均とほぼ同等でしたが、分類別に細かに見ると、いくつかの傾向が見られます。これらの傾向は、6年生だけではなく本校全体の傾向と考えられ、その傾向に対策を練っていくことが、本校児童の学力向上に対して大切になります。

國語

【傾向と対策】……読むことの力の向上がポイント

		本校	山梨県	全国
学習指導要領の領域	話すこと・聞くこと	—	71.9	72.6
	書くこと	—	28.4	26.7
	読むこと	△	71.4	71.2
評価の観点	知識・技能	—	67.5	68.9
	思考・判断・表現	—	65.2	65.5
主体的に学習に取り組む態度		設問なし		
問題形式	選択式	—	72.6	73.8
	短答式	—	61.3	62.7
	記述式	-	51.1	61.1

◎ 成果と思  
われるところ

△  
課題と思  
われるところ

- ◎ 「学習指導要領の領域」の「読むこと」以外は、特に苦手としている箇所は見られません。「読みこと」においては、「目的に応じて情報をを見つけたり、整理したりして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる」ことが苦手な傾向が見えます。
  - 学習指導にあたっては、必要な情報だと考えた語や文にマーカーを引いて視覚的に捉えることができるよう工夫させながら、読む目的を意識して、内容の中心となる語や文を選び、必要な情報を見つけて要約する活動を取り入れていきたいと思います。

算数

【傾向と対策】……基礎基本の活用がポイント

		本校	山梨県	全国
学習指導要領の領域	数と計算	—	65.9	67.3
	図形	—	47.4	48.2
	測定	設問なし		
	変化と関係	—	68.8	70.9
	データの活用	—	65.9	65.5
評価の観点	知識・技能	△	66.3	67.2
	思考・判断・表現	—	54.9	58.5
	主体的に学習に取り組む態度	設問なし		
問題形式	選択式	△	58.7	57.7
	短答式	—	73.7	74.7
	記述式	—	45.4	47.3

◎ 成果と思  
われるところ

△  
課題と思  
われるところ

- ◎ 各領域については、苦手としている傾向は見られませんが、「知識・技能」の定着率が低い傾向が見られます。特に、学習したことは身についているものの、それを実際の場面に活用して解答を求めることが苦手な様子が見られます。
  - 学習に当たっては、学んだことを定着させるだけでなく、日常生活に根ざした場面設定から学習課題を設定し、得られた「知識・技能」を活用して課題解決をする場面を設定していきたいと思います。

全体

【傾向と対策】……二極化解消がポイント

※ 上記の表からは分かりませんが、最大の特徴は、正答率の二極化です。本校6年児童を平均すると、正答率は全国平均と同等なのですが、その平均正答率より高い児童がいる反面、低い児童も多くいます。特に算数ではその傾向が強くなっています。今後は、正答数が少なかった児童への指導が課題となってきます。基礎的事項の復習など、授業だけでなく家庭学習と連動させて繰り返し練習させ、定着するよう指導していきます。

<sup>1</sup> See, for example, the discussion of the relationship between the two concepts in the introduction to the present volume.

### 3 質問紙調査の主な傾向……学習状況はおおむね良好

- ## ☆ 児童質問紙調査の結果で特に顕著なもの ☆

- ◆ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた割合が、100%の項目……◎  
90%以上の項目……○、70%以上の項目……◇、県や全国の平均より低い項目……△

## 基本的な生活習慣

- 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」

**自己肯定感・居場所づくり**

- ◎ 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」
- 「先生は、分かるまで教えてくれている」
- ◇ 「自分には、よいところがあると思う」
- △ 「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」 → 気軽に相談できる環境を整備していきます。

**学校生活・友達関係**

- ◎ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」
- 「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」「人が困っているときは進んで助けている」「学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」

**将来への展望**

- 「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたいと思う」

**学習習慣・学習環境**

- ◇ 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「学習した内容を次の学習につなげている」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」

**地域との関わり**

- ◇ 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」
- △ 「今住んでいる地域の行事に参加している」 → 盆踊りにはたくさんの児童（特に6年生）が参加し、改善が進んでいると思われます。

**外国との関わり**

- ◇ 「外国人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国人にもっと知ってもらいたいと思う」

**ICT機器**

- ◎ 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」

**読書・新聞**

- ◇ 「読書は好き」
- △ 「新聞を読んでいる」 → NIE（新聞を取り入れた教育）を、一層推進していきます。

**家庭学習**

- ◇ 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている」

**学習に対する興味・関心や授業の理解等****【国語】**

- 「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」
- ◇ 「国語の勉強は好き」「国語の授業の内容はよく分かる」

**【算数】**

- 「算数の勉強は大切だと思う」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」
- ◇ 「算数の授業の内容はよく分かる」

**【英語】**

- 「英語の勉強は大切だと思う」
- ◇ 「英語の勉強は好き」

**その他の傾向**

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか、（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）

	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	全くしない
本校	6. 5	12. 9	58. 1	16. 1	6. 5	0. 0
県	6. 6	14. 1	36. 5	30. 2	10. 0	2. 7
全国	11. 8	13. 8	31. 5	26. 9	11. 4	4. 6

- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか、（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）

	4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	1時間未満	全くしない
本校	6. 5	0. 0	16. 1	45. 2	29. 0	3. 2
県	3. 5	5. 2	12. 5	31. 4	35. 6	11. 7
全国	7. 9	5. 4	11. 4	27. 8	33. 7	13. 8

**《考察》**

本校の休みの日の家庭での学習時間を見てみると、県や国と比較して、多い傾向にあります。しかし、本調査の国語・算数の正答率は県・国と同程度であることから、家庭学習で学んだことがより有功となるよう家庭学習のやり方の見直しが必要だと思います。

本校では、長年、年度始めに「家庭学習の手引き」を配布し、より有意義な家庭学習ができるように、ご協力をいただきてきました。本年度も、「家庭学習の手引き」を配布しましたが、時には、ご家庭で見直し、家庭学習への声かけをしていただけていますでしょうか。保護者の皆様の温かい声かけは、子供たちにとって一番の励ましとなります。子供たちが家庭学習に意欲的に取り組めるよう、声かけをお願いいたします。

また、一人一台端末の普及にともないまして、Chromebookを使用したオンラインでの学習（e ライブラリアドバンス）も推進しています。こちらも子どもによって取り組み時間に差が出ていますが、端末を使って学校での学習と家庭学習のつながりを意識した取組を進めていきたいと思っています。

本校では、ここ数年にわたり、基礎基本を大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業づくりを行うとともに、家庭学習の取組も推進してきました。また、長年、朝の読書活動や読み聞かせの会等の読書活動にも力を入れてきました。（ここ数年は、新型コロナウイルス感染症のために思うように実施できておりませんが。）

子どもたちは、日々の授業に一生懸命に取り組み、活発に意見交換をしながら、学習を深めています。全国学力・学習状況調査の結果も年々向上し、子どもたちの頑張りの成果が現れています。また、家庭学習にも、普段（月～金）1時間以上取り組んでいる児童の割合が8割を超えています。これは、ご家庭のご協力による成果だと思います。

学校で学習したことを家庭学習とつなげ、家庭で学習したことを学校での学習につなげることで、学習が広がったり、深まったりしていきます。学校では宿題の出し方等、さらに工夫を重ねながら、達成感や満足感を得ながら、自主的に学習に取り組む児童がますます増えるように働きかけをしていきたいと思います。